



祝合格 二〇二二年度入試

受験体験記 高校入試

☆N・M君 柏市立第二中学校卒
 (進学先) 千葉県立東葛飾高校
 (合格校) 専修大学松戸高校 (E類)



私は中学一年生のときに創学舎に入塾しました。とても分かりやすい授業で、良い教材を使っているのので、日々力をつけることができました。特に夏頃に配布される副教材は、自分の弱点がよく分かり、何度も解くことで弱点を克服することができました。また、過去問では、最初は全然点数を取ることができませんでした。しかし、夏期講習や日々の授業で学力をどんどん伸ばすことができましたし、自分がミスした箇所の解説を徹底的に読んで理解し、自分に嘘をつかずに取り組み続けることによって、着実に点数が取れるようになりました。

★Y・Mさん 柏市立西原中学校卒
 (進学先) 千葉県立東葛飾高校
 (合格校) 芝浦工業大学柏高校 (GL)

二松學舎大学柏高校 (S特進)

私は中一の夏期講習のときに入塾しました。宿題の量や小テストの内容にとっても驚いた気がしますが、しかし、それら一つひとつが実力や学力の向上に直結しているのがよく分かりました。授業は基礎知識を応用して問題の解き方に結び付けて進

んでいくので、理解を深めていくことができました。高校の内容にもつながっていくと思います。苦手の教材は副教材を何度も繰り返すことで、解き方が身についていきました。また、集団での授業で友達との交流を通して刺激をもらい、様々な考え方を持つことができ、人としても大切な経験をするのができました。志望校については最後まで悩みましたが、創学舎が心の支えとなり、東葛飾高校を受験することを決めました。基本的な単語や年号などは早めに覚えて知識を固めること。ノートは丁寧に書くこと。そして、自分の名前はしっかり書くこと。本当に色々なことを学ぶことができ、創学舎を選んで良かったと思います。

★S・Tくん 流山市立南部中学校卒
 (進学先) 千葉県立小金高校 (総合学科)
 (合格校) 流通経済大学柏高校 (特進)

創学舎は、他の塾より圧倒的に良い塾だと思います。先生は優しく、教えるのが上手いし、他の塾に比べるとお金もそこまでかからない気がする。私の苦手科目は数学だったが、五教科の中で一番好きな教科だったので、勉強するのはそこまで苦ではなかった。克服の仕方などは特になく、ただ勉強しまくることだと思ふ。なぜなら、私が伸びたのは、「ただ勉強しまくっただけ」だからだ。私は夏休みが明けてから勉強を頑張りはじめたが、夏休みに頑張っておくと後々楽になると思う。

☆T・Kくん 柏市立高柳中学校卒
 (進学先) 千葉県立柏高校 (普通科)
 (合格校) 岩倉高校 (普通科学業特待)

私は公立高校受験の三週間前、学校の体育の授業で転倒し、利き手を骨折してしまいました。ギブスで固定され、鉛筆が持てない状態だったので、

公立高校の受験は半分あきらめていました。そのような中でも創学舎の先生方は「左手でも絶対に大丈夫だ」と励ましてくださり、自信を持つことができました。私は創学舎に一年生の冬から通いはじめました。創学舎の良いところは、教えてくれるのが勉強だけではないというところです。先生方の人生経験の話や時には失敗談など、とてもためになる話が多く、いつもポジティブな気持ちにさせてくれます。だから、勉強を頑張ることができたのだと思います。そして、入試までの三週間、必死に左手で文字を書けるように練習をしました。そのかいあって、無事に合格することができました。

☆A・Aさん 我孫子市立我孫子中学校卒
 (進学先) 茨城県立土浦第一高校
 (合格校) 芝浦工業大学柏高校 (GL)

土浦日本大学高校 (II種特待)

私は千葉県公立高校ではなく、茨城県の公立高校を志願していました。そのため、周囲の人との温度差やプレッシャーを無意識のうちに感じてしまふことが多くありました。そのようなとき、神面でも私を支えてくれたのは創学舎の先生方です。先生方には感謝してもきれませ



ん。「これからの人生で胸を張って頑張ったと言える、そんな一年にしてください」これは私が所属していたクラスで、いざ受験勉強を始めようとなつたとき、先生がかけてくださった言葉です。勉強を投げ出したくなったとき、いつもこの言葉を思い出して、自分の勉強に対する姿勢を見直しました。これから受験生となる皆さんも最後まで絶対に諦めず、胸を張れる一年にしてください。

集団知 20

●集団知(知っている、知らないに関わらず、集団として受け入れた価値感・判断)の続きである。
 ●二〇二三年の大学入試も終わった。志望校に首尾よく受かった人、不本意な進学をした人、浪人をするようになった人、その結果はさまざまである。そして、不本意な進学をした人と浪人をするようになった人には、申し訳ない気持ちでいっぱいである。

●一般の教育機関並みのことは十分に提供したと思うし、それ以上のことをしたといえる部分もある。申し訳ないと思うのは、様々な面で生徒が変わる(成長する)手助けが届かなかったことが分かっているからである。

●①勉強法を伝えきれなかった。勉強にはいくつかのポイントがあるが、高校生になるまで身につけておくべき習慣や考え方が備わっていない生徒が一定数いて、その修正はやはり困難であったと思うケースがある。

「1」思いついた時に思いついたことをやる。「今日は英語に集中、明日は国語を頑張ろう。」というのは典型的な例。また、各科目小テストを実施しているが、テストの直前だけやって乗り切ろうとする人も少なくない。一定の学習能力がある場合がやっかいで小テストは合格するものの、それを二度と忘れないようにメンテナンスをせず最後まで知識の長期記憶にたどりつ

けずに終わる。覚えるのが苦手な生徒は小テストに合格することすらおぼつかない。それでも、当人は「やっている」と思っている。部活の大会で一回戦敗退のチームと同



様「やっつてはいる」が、それは「十分にやっつてい
る」「限界までやっつている」とは大きく異なる。
知識でいえば、少し覚えて、ほっといて、忘れて
のくり返しなのだ。

〈2〉点を線にできない。一つ一つの知識は点に
すぎない。もちろん、ほっとけばせつかく点とな
った知識も薄れていく。まずは点として記憶して
知識は薄れないように、そしてもっと濃い点とな
るようにくり返す必要がある。点の数が増
え、それぞれが濃くなり続けるうちに線となり、
また続けていくとその線が太くなる。こうして例
えば英語でいえば、単語の線・熟語の線・文法の
線と数が増えて太くなっていく。生徒には、こう
した理屈を伝えて(でも親も教師も考えていない
ようなことなので、なかなか信じてくれないから)、
言い続けるのである。ただし、私の力のなさ故、
様々な知識が点のままの生徒もいる。(以下次号)

検定受験のすすめ

柏・新柏教室の片岡です。

実は私は、教育業界随一の検定・資格マニアと
して知られています。現在までに合格・取得した
検定・資格の数は、累計五六七種八六〇個になり
ます。今回はそんな私の趣味を生かし、子どもた
ちの自主的な学びを促すための検定・資格のすす
めを書いてみたいと思います。

まず、教育分野での検定・資格の活用として、
多くの方が最初に思い浮かべるのは、**入試の際の
加点**についてでしょう。創学舎は、英検・数検・
漢検という、入試に直結する**三大検定の準会場**に
なっていますが、加点項目としての活用に関して
はやはり**三大検定が最もメジャー**です。ただし、

東葛地区の私立高校の中にも、単願・併願の推薦
基準の加点項目として、それ以外のものを挙げて
いる学校もあります。
たとえば、T高校では、

- 歴史能力検定三級以上
- ニュース時事能力検定三級以上
- PC検定三級以上
- 日本語検定三級以上

など、実に多様な検定を評価項目として挙げてい
ます。

第二に、**自主的な勉強姿勢を日常的に形成する**
という観点から検定・資格試験を評価してみたい
と思います。私たちは「入試」や「定期テスト」
といった具体的な目標設定がないと、なかなか本
腰を入れた勉強はできないものです。しかし、入
試学年を迎えるのは人生のほんのわずかな一時期
にすぎませんし、定期テストもそう頻繁に行われ
るものではありません。そうすると、ただ学校や
塾で出された宿題を受け身的にやるだけで、学生
時代の大半を終えることになってしまいます。し
かし、これから子どもたちを待っているのは、学
校を出てからも一生勉強を続けていく必要のある
生涯学習社会です。そこで求められるのは、自分
で目標を設定し、自主的に勉強していく**姿勢**です。
そこで、「〇月に行われる〇〇検定〇〇級に合格す
る!」「合格すれば次回は〇級に挑戦する!」とい
うように、資格・検定試験の合格をひとつのマイ
ルストーンとして活用するのはどうでしょうか。

世の中には子どもたちが興味を持ってそうな検定・
資格試験は山ほどあり、一年を通じて毎週よう
に試験が行われているからです。また、入試や定
期テストと異なり、大半の検定や資格試験は、合
格定員があるわけではなく、基準に達していれば

全員合格できるように作られています。

これは、ある程度勉強を続けていけば**努力は必
ず報われる**という、**成功体験**を持た
せやすいということです。できるだ
け早いうちから努力↓合格↓喜びと
いう脳に快感物質が放出される体験
を積み重ねていくことが、生涯にわ
たる勉強を動機づけるメンタリティ
形成につながるのです。



第三に、**知的好奇心を刺激する**という点で、検
定・資格試験はリーズナブルです。学習塾の講師
として実感するのは、小学生のうちから自然体験
や社会性体験、国際体験など様々な刺激を受ける
機会を増やそうと、世のお父さま・お母さまが大
変な労力を払っていることです。しかし、高いお
金を払い、貴重な休みを捻出して、ようやく経験
させた様々な企画がどれほど子どもたちの心を動
かしたのか、実感がもてない、まるで「のれんに
腕押しだ」というぼやきも、また多くの方に共通
の感慨ではないでしょうか。

しかし、私が資格マニアとして毎月(場合によ
っては毎週?)のように入っている会場に行きま
すと、老若男女様々な受験生の中に、子どもたち
(特に小学生)を見出すことが最近は多くなりま
した。中でも趣味・教養系の検定試験に顕著なの
ですが、ひとたび特定の分野に情熱を燃やしたと
きの子どもたちの記憶力といったら、大人顔負け
の実力を発揮することが多いようです。個人的に
は隣の席で小学生が受けていると大変なプレッシ
ョンとなつて困る(苦笑)のですが、子どもたち
の方は真剣な大人たちに交じって対等な立場で受
験すること自体が特別な体験として、それ自体に
楽しさを感じているように見受けられます。また、

親子連れと思われる受験生を目にする機会も増え
てきていますが、親子で共通の趣味を持ち互いに
刺激し合える関係は、傍で見ていてもとても微笑ま
しいものです(もともとのお父さま・お母さまの胸
中は、万一子どもだけ受かっていたらと穏やかで
はないのかもしれませんが……笑)。そんな風にし
て楽しいことを追求することで、そこから深めた
り広げたりした世界が一種の**キャリア教育**として
効果を上げることもあるでしょう。子どもたちが
らしたらゲーム感覚で次々ステージを攻略してい
くことで、大人たちに認められる貴重な場となる
のではないのでしょうか。

最後に、三大検定以外で学校の勉強にも役立つ
「小中学生におすすめの検定」をいくつか挙げて
おきます。

- 日本語検定
- ことわざ検定
- 敬語力検定
- 算数・数学思考力検定
- 統計検定
- 情報検定
- 歴史検定
- 地図地理検定
- 国際知識検定
- Eco検定
- 理科検定
- 天文学検定
- 生物分類技能検定
- 美術検定
- 家庭料理技能検定
- TOEIC Bridge
- 国連英検ジュニアテスト